

あいちデジタルアイランドプロジェクト推進事業 (5G等デジタル技術活用促進事業) 事業実施報告書

みずほリサーチ&テクノロジーズ

デジタルコンサルティング部

ともに挑む。ともに実る。



項目	頁番号
事業目的、業務内容等	03-07
1. オープンイノベーションフィールド化の促進	08-09
ア ピッチイベントの開催	10-12
イ フィールド活用支援	-
① 伴走支援	13-44
② 機運醸成	45-65
2. ワンストップ窓口の運営	66-69
3. P R ツールの作成及び成果報告会の開催	70-80

事業目的、業務内容等

事業目的

- 愛知県は、2026年に開催されるアジア競技大会等を見据え、海外からのゲートウェイとなる中部国際空港島及び周辺地域（以下「当エリア」という。）を、5G等先端デジタル技術の実証意向があるテック企業、スタートアップ等を誘引する「革新的事業・サービスのオープンイノベーションフィールド」として位置づけ、実証の取組を県内外に横展開し、2030年に普及が見込まれる各種サービスやソリューションの早期社会実装の実現を目指している。
- これまでのあいちデジタルアイランドプロジェクトの取組が、ショーケースとしての役割を果たし、5Gを始めとする先端デジタル技術導入の機運が高まっている中、本事業では、当エリアにテック企業、スタートアップを誘引し、エリア内の企業における先端デジタル技術活用の更なる機運醸成を図ることで、当エリアのオープンイノベーション化を加速する取組を行う。

業務内容

■（１）オープンイノベーションフィールド化の促進

― テック企業、スタートアップ等（シーズ企業）を誘引するため、中部国際空港をはじめとする当エリア内企業、施設が提供するフィールドとマッチングし、先端デジタル技術を活用する実証実験を支援するとともに、当エリアの実証フィールドとしての魅力をPRする。

● ア ピッチイベントの開催

オープンイノベーションによる共創を促進するため、当エリアからフィールドを募集するとともに、フィールドを提供する企業の多くに共通すると思われる課題分野を3つ程度設定し、その課題解決に資する技術等を持つシーズ企業10社以上によるピッチイベントを開催すること。

（課題分野の例）省人化、効率化、おもてなし

● イ フィールド活用支援

― ① 伴走支援

フィールド提供企業での実証が3件程度成立するような仕組みを検討し、マッチングを行うこと。マッチングにあたっては、フィールド提供企業及びシーズ企業にヒアリングを行うなど、伴走支援を行うとともに、実証期間中も伴走支援を適宜行うこと。

また、実証に係る費用（事務局機能以外に係る経費）の基準を定め、基準に基づき各実証に対し支払いを行うこと。なお、実証に係る費用は600万円程度を想定しており、基準を定めるにあたっては、事前に県と協議を行うこと。

― ② 機運醸成

当エリアに立地する企業、施設に対し、オープンイノベーションによる共創の可能性及び重要性の認識、導入の機運を高め、共創を進めていくにあたって必要となる課題整理、取組課題の設定、共創していくためのノウハウ等を体得するためのセミナー等（必要に応じて現地視察）を3回程度実施すること。

業務内容

■（２）ワンストップ窓口の運営

- 先端デジタル技術を活用した実証・実装の意向を有する企業・施設や自治体等の相談にワンストップで対応する窓口を設置し、当エリアを活用した実証・実装の取組の各種相談、実証支援を行う。
 - 相談窓口は、Webサイト及びメール、電話等、利便性を鑑みた複数の受付方法を用意すること。
 - 相談窓口は契約締結後、速やかに設置し、契約期間終了まで運営すること。
 - 相談内容は、以下の内容を想定している。
 - デジタル技術の実証・実装に向けたアドバイス、マッチング支援、規制・許可に関する所管官庁等への取り次ぎ・申請サポート、資金支援（補助金等）の相談
 - 補助金等を活用する場合、実証実験に係る公募申請手続き等のサポートを行うこと。
 - 相談企業の希望に応じて訪問又は随行支援を行い、相談内容の解決に向けた支援を実施すること。なお、移動等にかかる費用は委託業務に含むこと。

業務内容

■（３）ＰＲツールの作成及び成果報告会の開催

- シーズ企業が提供した技術及び実証の内容、今後の導入に向けた課題を整理するとともに、当エリアの実証フィールドとしての魅力をアピールするＰＲツールを作成すること。
- また、デジタルアイランドプロジェクト全体の成果報告の場を設定し、ＰＲツールを活用して情報発信を行うこと。
- なお、成果報告にあたっては、あいちデジタルアイランドプロジェクトの他事業（先端デジタルサービスパイロット事業、実証成果の発信）と連携するなど、効果的な方法を検討すること。

■（４）その他

- 企業支援を実施するに当たり、関係者と密にコミュニケーションを図るとともに、必要に応じ速やかに現地訪問できる体制を構築すること。
- 打合せやイベント、ヒアリング等の議事録を作成し、速やかに県へ提出すること。



1. オープンイノベーションフィールド化の促進

- 以下の流れで業務を推進した
- ヒアリングを通じてフィールド企業の課題や提供可能なフィールドについて意見を収集したうえで、それらに即したテック企業の探索を実施し、各企業が一堂に会するピッチイベントを開催
- ピッチイベントの結果を踏まえたマッチング支援を行い3団体を実証実験団体として決定。各団体において実証実験の計画策定・実施をいただくが、各フェーズにおいて弊社が伴走的に支援を実施
- 上記の実施と並行し、当エリアにおける機運醸成を目的とした機運醸成セミナーを開催

ア. ピッチイベントの開催



イ. フィールド活用支援

① 伴走支援



② 機運醸成



1. オープンイノベーションフィールド化の促進

アピッチイベントの開催

イフィールド活用支援

- ① 伴走支援
- ② 機運醸成

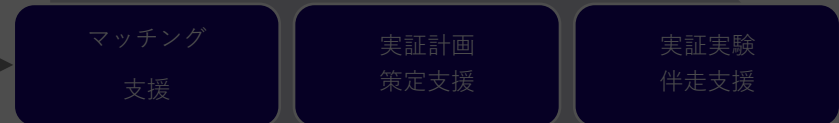
- オープンイノベーションによる共創を促進するピッチイベントとするため、事前の関係者における課題・ニーズ確認を行った上で、みずほのネットワークを十分に活用したテック企業の探索を行いピッチイベントを開催を実施した

ア. ピッチイベントの開催

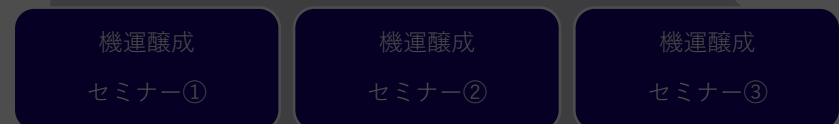


イ. フィールド活用支援

① 伴走支援



② 機運醸成



- ピッチイベントについては第2回機運醸成セミナーと同時開催とした。開催概要については以下の通り

ピッチイベント 兼 第2回機運醸成セミナー開催概要

名称	ピッチイベント 兼 第2回機運醸成セミナー
開催日時	2025年 8 月 5 日 火曜日 13 時～17 時
開催方法	会場 + Teams用いたハイブリッド形式
会場	中部国際空港 R-1会議室
主催	愛知県
事務局	みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社



◀ ピッチの様子

▶ ピッチ後に開催した
商談会の様子



1. オープンイノベーションフィールド化の促進

アピッチイベントの開催

イフィールド活用支援

① 伴走支援

② 機運醸成

- ピッチイベントの結果を踏まえ、実証団体のマッチング支援と、マッチング結果を踏まえた実証実験の計画策定支援並びに実証実験における伴走支援を実施した

ア. ピッチイベントの開催



イ. フィールド活用支援

① 伴走支援



② 機運醸成



中部国際空港	ugو	実証実験の具体的実施事項
解決したいお悩み - 巡回業務の省力化 - 簡単な案内の自動化	活用したいソリューション - 自動巡回機能 - 遠隔、自動案内機能	ugوを活用した空港案内スタッフの業務効率化 - ugوを用いて、放置されたベビーカー・車いすがありそうな場所の画像とコインロッカーを巡回し、撮影 - APお手洗いの混雑時、他の場所へ、自動案内を実施 - 顧客からの簡単な施設案内等の質問に対する回答
実証実験で検証したいこと - 放置ベビーカーや車いすの搜索業務とコインロッカーの空き状況確認業務の効率化度合いの検証 - お手洗いの混雑時間帯の誘導案内の自動化検討 - 顧客へのAIによる自動案内の効果検証		今後の展開（社内 / 地域内での展開構想・見通し） 制限エリア等での活用エリアの拡大

マッチング後のスケジュール計画

10月	11月	12月	1月
■ 実証実験計画資料の作成 ■ 現地視察	■ NDA締結 ■ マッピング作業 ■ WiFiルーター調達	■ 実証実験：立哨案内	■ 実証実験：走行運用

常滑市	カサナレ	実証実験の具体的実施事項
解決したいお悩み - バスの運行ダイヤ改正作業の省力化/属人化解消 - 車両配分の最適化	活用したいソリューション 生成AIを活用した運行ダイヤ作成システム	AIを活用したバス運行ダイヤ作成の業務効率化・最適化 - 生成AIを用いてコミバス6路線の運行ダイヤ案を作成 - 鉄道の特急ダイヤ、EVバスの充電時間、鉄道との接続など運行条件をAIに入力 - AIによるダイヤ改正案/作成時間と現行ダイヤ案/作成時間を比較し、業務負担の変化を検証 - バス運行の最適化を図る指標として、稼働率（回送率）を検証
実証実験で検証したいこと - 特急ダイヤ、EVバスの充電時間、鉄道との接続等を考慮した6路線のバス運行ダイヤ作成業務の効率化度合いの検証 - バス運行の最適化を図る指標として、稼働率（回送率）を検証		今後の展開（社内 / 地域内での展開構想・見通し） 属人化業務のAI Agent化

マッチング後のスケジュール計画

10月	11月	12月	1月
■ 現行ダイヤや運行データの収集 ■ ダイヤ作成に向けた条件の検討 ■ 現在のダイヤ作成時の考慮条件のヒアリング	■ AIシステムへの運行条件の入力 ■ 生成AIによるバス運行ダイヤ作成システムの作成・調整	■ 生成AIによるバス運行ダイヤ作成システムの作成・調整 ■ FB回収と改善実施	■ 生成AIによるバス運行ダイヤ作成システムの作成・調整 ■ FB回収と改善実施 ■ 実証結果の取りまとめ

CCNC	AI model	実証実験の具体的実施事項
解決したいお悩み - 若年層へのアプローチ - 従来のPRに疑問と限界 - AIキャラクターへの期待	活用したいソリューション - 若年層に届くプロモーション手法 - 生成AIを活用したキャラクター構築	生成AIを活用した日本初「地域密着型AIアナウンサー」 - AIを用いてCCNCのオリジナルAIアナウンサーを構築 - CCNCのニュース告知動画と出演動画を制作して放送 - CCNCの紹介動画を制作して営業等に活用 - 地元のイベント（マラソン大会）に動画で参加 - SNS（CCNCのX）でのAIアナウンサー活用
実証実験で検証したいこと - 若年層に向けてCCNCが注目されるきっかけとなるか（どのくらい認知されるか） - CCNCのSNSフォロワー数の増加、コメント数、シェア数等 - CCNCのWEB流入数の増加など - 地元イベントに参加した際の好感度かどうか		今後の展開（社内 / 地域内での展開構想・見通し） 中長期的には常滑市や知多半島だけでなく、愛知県全体に広がり、単なるアナウンサーに留まらない地域創生につながるキャラクターとして活躍することを支援

マッチング後のスケジュール計画

11月	12月	1月
- AIアナウンサーの方向性確認 - 役割の明確化 - 短期的な実現可能性の模索（イベントで何が可能か等） - 認知に向けたSNSやHP掲載、ニュースリリースなどの協議 - 中長期的な取り組みの議論	- AIアナウンサーの生成とローンチ - ニュース告知動画制作と放送 - CCNC紹介動画の制作 - イベント（マラソン大会）参加動画の制作 - ローンチに向けたSNSやHP掲載、ニュースリリースなどPRの実施	- ニュース番組での動画出演 - CCNC紹介動画の活用 - イベント（マラソン大会）への動画参加 - 実証結果の取りまとめ - 他業務や次年度以降、中長期的な展開案検討

中部国際空港株式会社 × ugo株式会社
最終報告資料

実証実験の目的

- 中部国際空港の案内スタッフが行っている巡回業務において、自律走行が可能なロボットを用いた巡回業務の効果検証の実施
- 同じく案内スタッフが行っているお客様への簡単な施設案内などの案内業務における、AIを用いた自動案内による効果検証、多言語対応による効果検証の実施
- 上記2点の業務における効果を測定し、将来的な案内スタッフの省人化・省力化に向けた業務効率化を目指す

実証実験の内容

<実施体制>

- 中部国際空港：スーパー・スマート推進部、中部国際空港旅客サービス：顧客サービス部 案内G
- ugo：セールス担当者（運用検討・サポート）＋テクニカルセールス（技術的サポート）

<実施期間>

- Phase1：2025年12月初 ～ 12月26日
- Phase2：2026年1月12日 ～ 1月30日
- ※ 12月27日～1月11日は、年末年始ならびに運用変更セットアップのため休止

<実施内容>

- Phase1：立哨案内 ⇒ 第2ターミナル1階 到着ロビーにて立哨、利用客の問いかけに合わせて自動案内。
- Phase2：走行運用 ⇒ 第1ターミナル3階 出発ロビー内を巡回し、要所で写真撮影。

実証実験の成果

【立哨案内】

■案内業務の省人化・省力化

AIを用いた自動案内や定型文での音声案内を組み合わせることで、空港ターミナル内における案内業務の省人化・省力化に寄与する可能性を確認しました。

■案内件数・内容

- ・件数：※集計中
- ・内容：※集計中

【走行運用】

■移動・確認業務の削減による効率化

ロボットによる定期巡回および画像取得を活用することで、巡回や確認のためにスタッフが現地へ移動する回数を抑えることができ、移動時間や身体的負担の軽減につながる可能性が示されました。必要な場合に人が対応する運用とすることで、業務効率の向上が期待されます。

■走行実績

- ・走行回数： 31回（平日15日間）、巡回時間：40分～50分/回
- ・完走率： 100%

今後の方針

走行＋案内が同時に実施できる機体を用いて、移動・確認業務を行いながら利用者への案内を並行して実施する機体のニーズが確認され、テック企業にて開発・機能実装を進める。

フィールド企業としての感想

1. オープンイノベーションに対する印象

- ・気持ちの変化（1：不安～5：期待）

実証前：2



実証後：4

- ・変化のきっかけとなった出来事
お客様などから、空港で働くロボットが好意的に受け止められていると分かったこと

2. オープンイノベーションによる効果

- ・実感した変化
お客様がロボットに対して受容性が高いことを実感し、補助的な役割として将来的な省人化に対応できる可能性を得られた
- ・組織内での副次的な効果
ロボットの得意・不得意で、ロボットが補える業務・人が対応すべき業務の再確認ができた。
さらに今後の案内業務に活かせる新たな視点を見出すことができた。

3. これからオープンイノベーションに取り組み始める企業・団体等へのアドバイス

- ・やってみて初めて分かることがたくさんあるので、ぜひ一歩踏み出してみたいです。

テック企業としての感想

1. 本事業に参加して良かった点やメリット

- ・空港環境でPoCにて、技術検証だけでなく運用・安全・導線設計まで含めた実装知見を得られた
- ・現場担当者との対話を通じ、机上では見えない業務課題や期待値を把握でき、プロダクト改善に直結する学びが得られた
- ・公共性の高い場での実証実績が、今後の事業展開や社会実装に向けた信頼性向上につながった

2. オープンイノベーションにあたり、事務局や愛知県に対してさらに期待する支援

- ・実証をきっかけに、事業化や社会実装につながる継続的な関係づくりを後押しする支援があると心強いです

3. 全国のテック企業へのメッセージ

- ・技術の価値は現場で使われて初めて明確になるため、実環境での実証に積極的に挑戦することが重要だと感じた
- ・調整や制約が多い分、リアルな課題と向き合える経験がプロダクトと事業を大きく成長させる
- ・自治体や現場との対話を重ねることで、社会に根づく技術への道が開けると考える

■ 実証内容詳細

立哨案内

T2到着ロビー及び内にて立哨（走行なし）。
建物内の案内や空港周辺情報を、利用客の問いかけに合わせて案内。



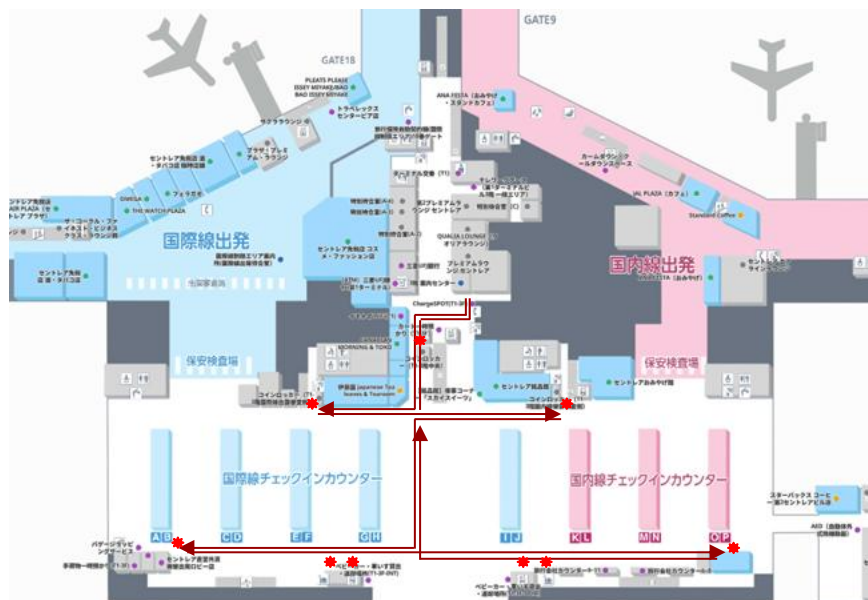
★ 立哨場所



■ 実証内容詳細

走行運用

T1出発ロビー内を巡回し、要所で写真撮影。
車いす・ベビーカーの保管状況、コインロッカーの利用状況、ゴミ箱や放置されたキャリーバッグの有無などを写真で記録。



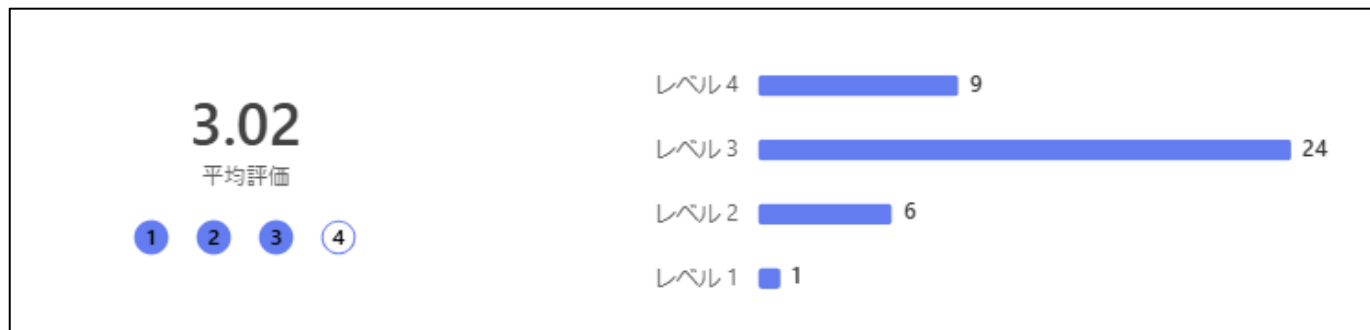
★ 写真撮影場所



■ アンケート結果抜粋（定量面）

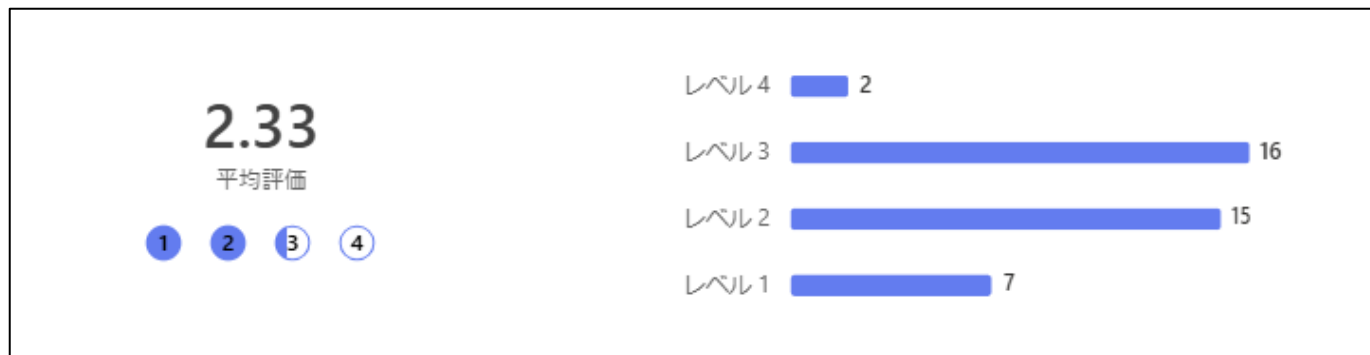
【第一印象】 ロボット(ugo)がディスプレイと音声による案内、走行巡回をすることを聞いてどのくらい期待をしましたか？

1：期待できない 2：あまり期待できない 3：少し期待できる 4：期待できる



【実証後の印象】 ディスプレイと音声による案内、走行巡回の実験を通していまの印象を教えてください。

1：大きく期待を下回る 2：少し期待を下回る 3：期待通り 4：期待以上



■ アンケート結果抜粋（定性面）

今後、案内業務を行っているスタッフの目線でロボットなどに求める機能は何ですか？

要約
・ ロボットで空港内の地図や施設の案内確認できると、ロボットが巡回中でも対応ができて良いなと思った。
・ ロボットでの自動案内で対応できなかった場合に、自動で遠隔案内に切り替わると便利だと思った。
・ 駐車場も巡回できるロボット
・ 拾得物や重いものを運ぶロボット
・ 目的地まで誘導してくれたり、介助対応してくれるロボット
・ 軽量型のロボット→(案内所のオープン・クローズ作業時の移動負担・お客様が触るなどして倒れた時の安全性)
・ 多言語案内

お客様などから、ugoについて聞いた意見や感想などがあれば教えてください。

要約
・ 子どもが「ロボットかっこいい」と言っていたり、「ロボットこわいー」と泣いていた。
・ カメラやスマホで撮影された方もいらっしまった
・ たまにお子様が腕を掴んだり触ったりしていた
・ 何の為のロボットなのか
・ 不審者がいたら戦ってくれるか？物を運んでくれるか？喋ってほしい。
・ ロボットがあっても結局スタッフがいる案内所に行くよね
・ ロボットは何か国語話せるの？
・ 老若男女問わず、興味を持たれていた

常滑市×カサナレ株式会社
最終報告資料

実証実験の目的

- ・ 市内7路線(スクールバス含む)のバス運行ダイヤ作成業務において、鉄道接続、遅延傾向、複数路線の車両運用、EVバスの充電制約、運転手の休憩規程、固定便（スクールバス等）など、複数の制約条件を同時に満たす必要がある。これらは担当者の経験や暗黙知に依存しやすく、改正検討（年2回程度）に際しては調整負荷が大きい。
- ・ 本実証では、生成AIを活用して上記制約条件を整理・ルール化し、複数案のダイヤを自動生成・比較検証することで、業務効率化と品質向上、業務標準化を目指す。あわせて、重要拠点における接続成立や、乗換余裕（例：2分では不足しやすいため一定の余裕確保）といった利用者影響も考慮し、実務で運用可能な条件設定・評価方法を確立し、人的負担の軽減やミスの防止、業務標準化を目指す。

実証実験の内容

<実施体制>

- ・ 常滑市：市民協働課 1 名(バス運行ダイヤ管理担当)、企画課 1 名(実証実験等サポート)、カサナレ：3名

<実施内容>

- ・ 10月は、現行ダイヤおよび運行履歴データを詳細に収集し、ダイヤ作成プロセスのフロー化と要件整理を実施した。その後、生成AI単体によるダイヤ作成システムの検証を行ったが、制約条件の遵守性に課題が残るとともに、生成結果の品質のばらつきが大きく、生成AI単体での安定運用は困難であると判断。
- ・ 11月は、アルゴリズムと生成AIを併用するハイブリッド方式の検証を実施。制約条件のうち、絶対に遵守すべき条件を対象を絞ったうえで複数手法を比較検証し、最も安定的に出力できる貪欲法を基礎として選定。
- ・ 12月は、絶対遵守の制約に加え、その他条件も含めた状態で検証を実施。これまでの取り組みを「高度化AI」と位置付け、別軸としてダイヤをその場で修正・作成できる「最適化AI」に向けた開発を開始。LLMでの出力のゆらぎは大量データの一斉アウトプットであったため、負荷分散を目的として、各車両ごとにLLMを作成、合議制でLLMがダイヤを自ら選択する方式を採用。
- ・ 1月は、「高度化AI」を基盤とした「最適化AI」システムの開発に注力。具体的には、アルゴリズム出力に対する修正機能（修正に伴う充電時間・回送等の自動再計算）、新規ダイヤの作成・反映、ランダムデータを用いた出力安定性の検証を実施した。また、LLMによる修正点・改善点のレコメンド機能の導入に加え、バス台数や路線数の変更にも柔軟に対応可能なシステムであることを検証。

実証実験の成果

<業務効率化・省力化>

- 本実証により、従来は担当者の経験や暗黙知に依存していたバス運行ダイヤ作成業務において、AIによるダイヤ案生成を行うことで、業務効率化および省力化が期待されることが示唆された。このことにより、ダイヤを作成する負担を軽減し、内容確認や調整といった判断業務に注力できる可能性がある。
- また、ダイヤ作成と並行して、運行可能性をシュミレーション可能となることから、従来発生しやすかった手作業による修正や条件の見落としに伴う再調整の抑制、作業の手戻り防止につながる可能性がある。
- さらに、AIを用いて代替案や修正案を迅速に生成できる仕組みを整備したことで、従来よりも柔軟かつ効率的な対応が可能となることが期待される。加えて、充電ステーションの利用調整や乗換便の整理など、手作業では考慮が難しい条件についても、体系的に整理されたダイヤ案を作成できる可能性が確認された。
- 本実証は、自治体のバス運行ダイヤ作成業務においてAI活用による省力化の可能性を示すものと考えられる。

高度化AI(アルゴリズムを主体としたシステム)



最適化AI(ダイヤ編集/修正が可能なシステム)



今後の方針

- 常滑市・カサナレ間で今後の活用やアップデート案について意見交換

フィールド企業としての感想

1. オープンイノベーションに対する印象【市民協働課】

- 気持ちの変化（1：不安～5：期待）

実証前：3 ▶ 実証後：4

- 変化のきっかけとなった出来事

短期間の実証実験の中で、課題であったダイヤ改正作業の省力化や属人化の解消を想像できるだけのシステムが構築された。

2. オープンイノベーションによる効果

- 実感した変化【市民協働課】

課題に対して既存のシステムで対策するのではなく、オーダーメイドでシステム構築していくことで対策効果が高いものができると実感した。

- 組織内での副次的な効果【企画課】

事業課が実際に実証実験に参加することで、テック企業等との共創に対する心理的なハードルが下がったと感じたので、小さなことからでも実際に参加してもらうことが必要だと分かった。

3. これからオープンイノベーションに取り組む始める企業・団体等へのアドバイス

- システム設計や検証には時間を要するため、設定条件等を事前に言語化しておくことで検証期間を 確保していくことが重要だと感じた。【市民協働課】
- 決裁の下りにくさやスケジュール、予算に対する厳しさ等、行政特有の事情を汲んでオープンイノベーションに取り組んでくれる企業だと大変有難いと感じた。【企画課】

テック企業としての感想

1. 本事業に参加して良かった点やメリット

- 制約の多いダイヤ業務で、生成AI単体ではなくアルゴリズム併用が有効だと検証でき、実装に近い知見が得られた。
- 実際にダイヤ作成を行う担当者だったら。という目線でどのような体験であればわかりやすく、楽に業務遂行できるか。という担当者目線のシステム設計が出来た。

2. オープンイノベーションにあたり、事務局や愛知県に対してさらに期待する支援

- 横展開（他自治体・他フィールド）の機会提供
- 成果の発信支援
- データ提供や匿名化ルール、契約・知財

3. 全国のテック企業へのメッセージ

まずは現場の制約条件を“文章にできる形”まで分解し、絶対遵守の条件から優先順位を付けて段階的に実装・検証することをおすすめします。

また、現場が評価しやすいように「どの条件を守ったか／守れなかったか」を説明可能にしておく、合意形成が進みやすく、現場の負担を増やさずに検証サイクルを回せる設計が、重要だと思いました。

■ アルゴリズムの拡張性

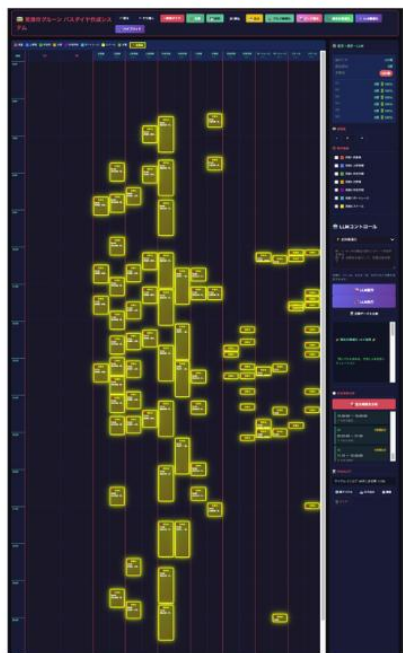
以下に示す4手法に対応した作成ロジックを実装し、拡張性のある構成を実現した。現時点の運用に加え、手法ごとの特性を踏まえた調整により、今後さらなる品質向上が見込める。



ヘッダー上のボタンからダイヤを自動割当することが可能。

振り分け前ダイヤ

ダイヤの一覧
ランダムなダイヤを



アルゴ最適化

ダイヤの一覧
ランダムなダイヤを



ピーク優先

ダイヤの一覧
ランダムなダイヤを



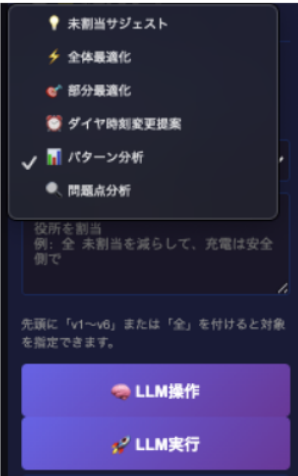
確定的最適化

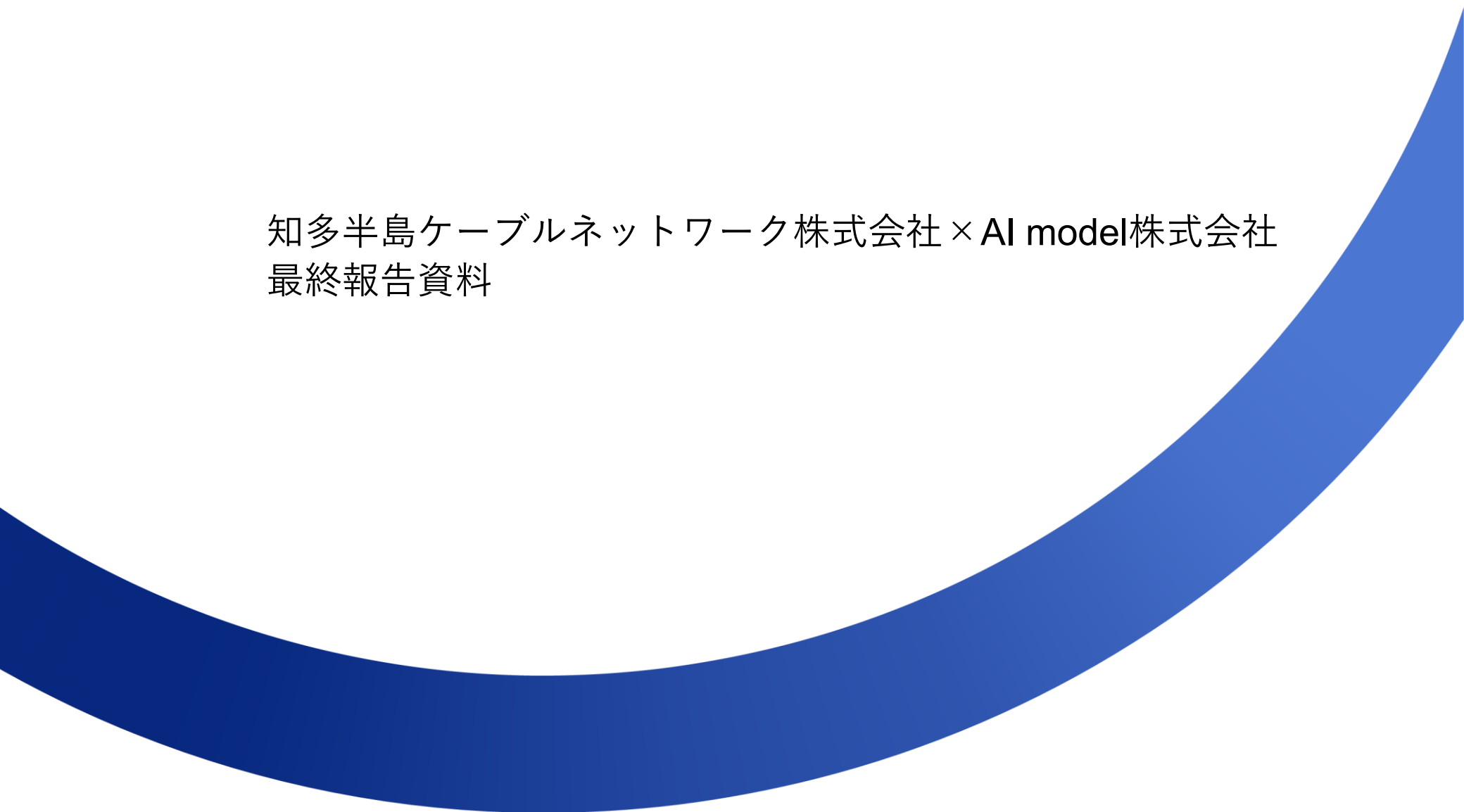
ダイヤの一覧
ランダムなダイヤを



■ 生成AIバスダイヤレビューの拡張性

生成AIによるレビュー機構を実装し、一定の妥当性をもったレビュー結果を得られている。今後はレビュー後の最適化・修正まで含めた仕組みへの拡張が検討可能であり、段階的な発展が期待できる。

LLM分析機能 LLMが分析/振り分けを実施	問題点分析出力例 振り分け済みダイヤを解析し、問題点を提示します	パターン分析出力例 パターンを解析し、より良いダイヤ作成案を提示します
	問題点1：バッテリー残量が低い車両がある 状況 V2：24.8% V6：26.3% 最低ライン（30%）を下回っている 影響 運行中にバッテリー切れになるリスクが高い 改善案（やること） V2とV6を最優先で充電ポートへ回す 可能なら ポートレース側の充電ポートを活用して、効率よく充電する 問題点2：未割当の便がある 状況 未割当が3便ある 影響 運行が非効率になり、全体の稼働バランスが崩れる 改善案（やること） バッテリーに余裕のある車両で埋める 例：V1（70.5%）やV5などを使って割り当てる 問題点3：充電ポートの使い方が最適化されていない 状況 充電の優先順位や回し方が整理されておらず、 残量が低い車両が充電できていない可能性がある 影響 本来守るべき「最低バッテリーライン」を 割り込みやすくなる 改善案（やること） 充電ポートの運用ルールを見直す 残量が低い車両を最優先で充電するスケジュールにする 可能なら 充電状況をリアルタイム監視して、 必要に応じて柔軟に入れ替える	提案（割当案） 1) assign：1毎日_11時00分_系統401 → V3 根拠 V3は11:10に601系統を終了しており、 次の動きとして11:28からポートレースとこなめで充電開始になっている →つまり、11:00発の401系統を入れても運行の流れが作れる（充電開始までのつなぎとして使える） 期待効果 充電ポートを活かしつつ、空き時間を運行に回せて 全体効率上がる 2) assign：8学期_16時10分_系統804 → V4 根拠 V4は16:42に701系統を終了し、その後次便まで余裕がある 804系統は短時間運行なので、隙間に差し込みやすい 期待効果 待機時間を減らして、稼働率を上げられる 3) assign：1毎日_16時30分_系統203 → V6 根拠 V6は16:15に101系統を終了しており、16:30発の203系統にそのまま接続可能 運行間隔が短く、車両移動や準備のロスが少ない 期待効果 便間の空白が埋まり、運用がスムーズになる 注意（重要） 以前の情報だとV6はバッテリーが低めだったので、203を入れる場合は 「運行後に充電へ直行できるか」、もしくは事前に最低ライン（例：30%）を満たすかだけ確認しておく と安心

A thick, dark blue curved line that starts from the bottom left, dips down, and then rises towards the top right, framing the text.

知多半島ケーブルネットワーク株式会社 × AI model株式会社 最終報告資料

実証実験の目的

- テレビのニュース番組で、生成AIで作られたキャラクターがアナウンサーとして役割を担えるかを検証する
- 日本初の「地域密着型 AIアナウンサー」として、地域イベントの現地で市民の方々との直接交流を図る
- SNSなどにもメディアを横断して登場し、若年層にも届くプロモーション展開を行う

実証実験の内容

<実施体制>

【フィールド企業】知多半島ケーブルネットワーク株式会社

- 全体統括1名、映像制作1名、イベント管理1名、その他1名

【テック企業】AI model 株式会社

- 全体統括 1名、アカウントマーケティング 3名、プロデューサー 2名、クリエイティブディレクター 3名、制作チーム 2名

<実施内容>

- 2025/12/11 SNSでティザー告知
- 2025/12/22 「ニュースCCNC」リニューアルの告知CMにて初登場
同時に SNS、PRで AIアナウンサーのビジュアルと名前を発表
- 2026/01/01 SNSで新年のあいさつ
- 2026/01/05～「ニュースCCNC」のリニューアルに合わせて、本編でもアシスタントとして登場
- 2026/01/25 武豊町ゆめたろうスマイルマラソンに参加。開会式での選手宣誓、記念撮影による交流を実現
- 2026/02～ CCNC会社紹介動画に出演

実証実験の成果

■STEP 1：ニュース本編での活用

- ・映像：撮影された場面に遜色ないクオリティで、AIアナウンサーとしての役割を果たすことができた
- ・人との協業：実在のアナウンサーのアシスタントという役割。AIアナウンサーは毎回の「今日のラインナップです」など定型的な部分を元気な声で読み上げる。AIの得意な部分で人と役割分担
- ・CCNC社内の声として、「番組が明るくなった」との声をいただいた
- ・見えてきた課題：元気な声を出すと動作が大きくなる傾向。落ち着いたアナウンサーとして成長したい

■STEP 2：地域イベント「武豊町ゆめたろうスマイルマラソン」への参加

- ・「地域密着型 AIアナウンサー」として、開催前からSNSでスマイルマラソンを盛り上げる告知投稿に登場
- ・マラソンの開会式に、大型モニターを通じて参加を実現。舞台の上で「選手宣誓」を行う
- ・マラソン開始後はブースで記念撮影用動画を投影。武豊町町長など多くの参加者に見ていただく
- ・見えてきた課題：地域イベントを盛り上げるには、人がその場で話しかけたら反応できた方がいい

■STEP 3：SNSでのプロモーション展開での活用

- ・「ニュースCCNC」リニューアル告知や、スマイルマラソンのカウントダウン、新年のあいさつなどに活用
- ・X投稿の1投稿あたりインプレッション数：通常投稿にくらべて、AIアナウンサー関連の投稿は 131%に増加



今後の方針

- ・AIアナウンサーに話しかけると答える対話機能を実装すると、テレビ放送や地域イベント、お困りの方などの役に立てる幅が大きく広がる。「地域の頼れる何でも屋」として成長する可能性を、両社で協議していく

フィールド企業としての感想

1. オープンイノベーションに対する印象

- 気持ちの変化（1：不安～5：期待）

• 実証前： 4 実証後： 5

• 変化のきっかけとなった出来事

自社内だけでは発想が固定化しがちな中、外部パートナーとの協業により、従来の延長線上にはない選択肢を検討できた点は大きな意義であった。

2. オープンイノベーションによる効果

• 実感した変化

技術検証に留まらず、地域・番組・イベントといった複数分野への横断的活用が可能となった。

• 組織内での副次的な効果

部署を越えた会話や意見交換が増え、技術導入をきっかけとした組織内コミュニケーションの活性化につながった。

3. これからオープンイノベーションに取り組み始める企業・団体等へのアドバイス

- オープンイノベーションは成果がすぐに数値化されにくい一方で、組織や人の意識変化という形で、確実に次の挑戦への土台をつくっていくと思います。

テック企業としての感想

1. 本事業に参加して良かった点やメリット

- 動画編集・放送のプロであるCCNC様との共同作業の中で、弊社も期待に応えるために新しいAI技術や表現方法に次々にチャレンジし、成長することができた。
- 短い実証期間だったが、放送時の様子や地域イベント参加のリアルなフィードバックを迅速にいただけた。そのことにより弊社制作チームのモチベーションが上がり、制作物ごとにクオリティを高められた。また、最後に制作した「会社紹介編」では、CCNC様の編集テクニックにより、AIキャラクター表現の新しい可能性を感じた。

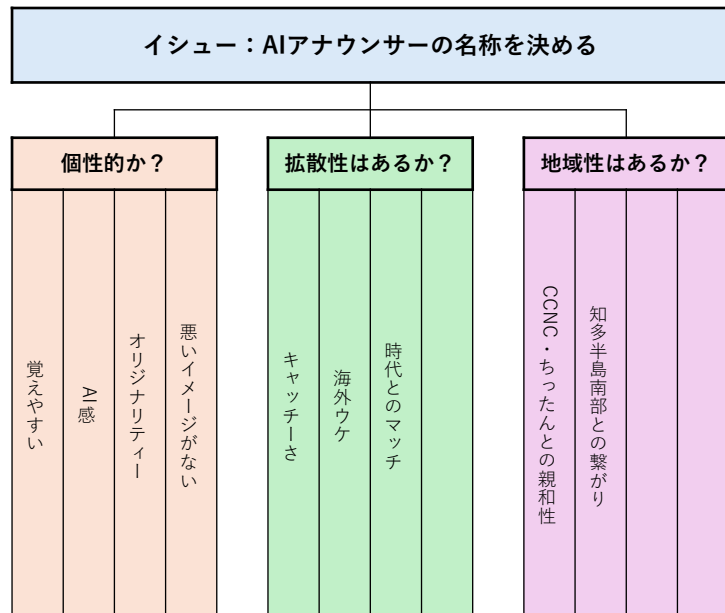
2. オープンイノベーションにあたり、事務局や愛知県に対してさらに期待する支援

- 可能かつ公平な範囲で、本プロジェクトの紹介や広報支援をしていただけると、効果がさらに高まると思います。

3. 全国のテック企業へのメッセージ

フィールド企業とテック企業はおたがいに補い合える部分が多く、理想的な協業の関係だと思っています。

■ 名前決め：キャラクターとして要となる名前は、AIらしさを重視した「**COCOAI**」（ここあ）に決定



番号	候補名	得点	覚えやすさ	AI感	オリジナリティ	悪いイメージがない	キャッチーさ	海外ウケ	時代とのマッチ	CCNC・ちったんとの親和性	知多半島南部との繋がり	理由
1	ここみ・cocomi	9	○	○	×	△	○	△	△	×	×	地域の声だけでなく心を届ける
2	ちたみ	13	○	△	△	○	△	△	△	○	○	知多半島の声を聞き、そして届ける
3	ルミナ	13	○	○	△	○	○	○	○	×	×	光、輝くの意＝地域を明るくする・輝かせる
4	リボルナ	12	△	○	○	○	△	○	○	×	×	伝える＋月（幻想的）
5	あゆち・ayuchi	10	△	△	△	△	△	△	△	△	○	瀬田あゆち＝知的で丁寧に伝える・愛知の昔の名
6	CCみなみ	16	○	○	△	○	○	△	○	○	○	CCNC、知多南部、メールのCcでみんな繋がる
7	mitemite	10	○	△	△	△	○	△	△	△	×	ぜひ見てみて！が口グセ
8	ミナたん	13	○	△	×	○	○	△	△	○	○	ちったんに寄せて
9	知南（ちな）	12	○	△	×	○	△	△	△	○	○	知多半島南部
10	ChiCa	14	○	○	△	△	○	△	△	○	△	Chita と Cable TVより
11	Toco	14	○	○	△	○	○	○	△	△	○	常滑市より
12	はずみ	13	○	△	○	○	○	△	△	×	×	知多半島の最南端の羽豆岬より
13	もこみん	10	○	△	△	○	○	△	△	×	×	
14	みのたん	13	○	△	○	○	○	△	△	○	×	
15	COCO	15	○	○	△	○	○	○	△	○	△	ココナツクラブ
16	ミライネ	11	△	○	△	△	○	○	○	×	×	未来＋AI。発音しやすい4文字
17	海音（みおん）	11	○	△	×	○	○	○	△	×	△	海＋アナウンサーの声の要素
18	チタ・ルミナ	16	△	○	○	○	△	○	○	○	○	未来のAIアナウンサー風
19	ちた・あいな	14	△	△	○	○	△	△	○	○	△	知多＋AI。親しみやすさと未来感
20	アイナ・ミサキ	10	△	○	△	○	△	△	△	×	△	AI＋岬
21	知多野 愛	14	△	○	○	○	△	△	△	○	○	知多のAIアナウンサー
22	南 知波（みなみちな）	12	△	△	○	△	△	△	△	○	○	
23	南 愛（みなみあい）	15	○	○	△	○	○	△	△	○	○	
24	COCOAI（ここあ）	16	○	○	△	○	○	○	○	○	△	（は飾りで読まない
25		0										
26		0										
27		0										
28		0										
29		0										



- AI model 社が AIアナウンサー部分の動画を作成。CCNC社が他素材と編集して完成。両社の強みでコラボレーション

背景写真



AIアナウンサー



A/ MODEL

AI動画化

セリフ台本



CCNC
動画編集

素材映像、および演出



動画「ニュース告知CM」（30秒）



放送やSNSで展開



■ 静止画や動画を SNSでの告知プロモーションにも活用



- ニュース本編：レギュラーコーナーの紹介などに自然に溶け込んで登場。「番組が明るくなった」との声

背景写真



AIアナウンサー



A/ MODEL

AI動画化

セリフ台本



CCNC

動画編集

リアルアナウンサー撮影



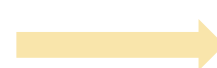
ニュース本編映像、演出



『ニュースCCNC』（2026年1月14日放送回より）



0'27"～0'50" AIアナウンサーの紹介、登場
1'30"～1'40" 明日のラインナップ紹介
1'50"～ エンディングにも登場



放送で使用



■ スマイルマラソンに向けて、服や髪形も新デザイン。まず SNSでの告知に使用



スポーツウェア姿
デザイン



A/ MODEL
ご提案

投稿テキスト案



- 武豊町ゆめたろうスマイルマラソン：現地への参加を実現。開会式で他選手と並んで“選手宣誓”を行う

動画「開会式編」（43秒）



1月25日、開会式の様子



■ スマイルマラソン会場のブースでも、記念撮影用の動画を投影

ブースの様子

「本物みたいだね」という声がありました



鳥羽 悠史 武豊町長と記念撮影



知多メディアネットワーク様のフリーペーパー「ちたまるスタイル」とのコラボも、急遽実現



- その他：正月など特別イベントに合わせて服も新デザインを作成。マスコットキャラクター「ちったん」ともコラボ

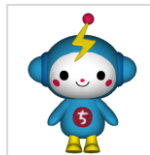
SNS「新年のあいさつ」（2026年1月1日、X投稿）



正月用の服デザイン



マスコット素材画像



投稿テキスト案



A/ MODEL
画像作成



- その他：CCNC社の「専属AIアナウンサー」として、更新料もなく、長く資産として活用可能

背景写真



AIアナウンサー



A/ MODEL
動画化

セリフ台本



素材動画、および演出



CCNC
動画編集

動画「会社紹介編」（30秒）



1. オープンイノベーションフィールド化の促進

アピッチイベントの開催

イフィールド活用支援

① 伴走支援

② 機運醸成

- 当エリアにおけるオープンイノベーションのさらなる機運醸成を目指し、以下3回のセミナーを開催した
 - 機運醸成セミナー①
 - 機運醸成セミナー②兼ピッチイベント
 - 機運醸成セミナー③
- 各セミナーの具体的な実施内容は次頁以降の通り

ア. ピッチイベントの開催



イ. フィールド活用支援



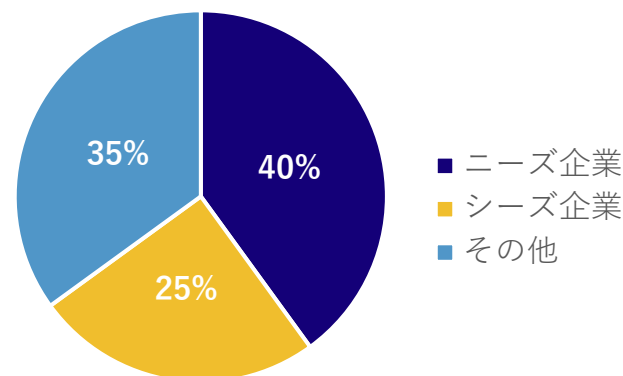
② 機運醸成



■ 本セミナーの開催概要は以下の通り

第1回機運醸成セミナー開催概要

名称	第1回機運醸成セミナー
開催日時	2025年6月23日 月曜日 14時～16時
開催方法	会場 + Zoomを用いたハイブリッド形式
会場	中部国際空港 R-1会議室
申込数	会場参加：21名、オンライン参加：39名
参加者数	会場参加：20名、オンライン参加：40名
主催	愛知県／中部国際空港株式会社
事務局	みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社



参加者属性（会場参加者）

■ 本セミナーのプログラムは以下の通り

プログラム

時間	プログラム	登壇者
14:00-14:05	開会挨拶	中部国際空港株式会社 社長 犬塚力 氏
14:05-14:20	あいちデジタルアイランドプロジェクトの 概要説明	愛知県 経済産業局 産業部 産業振興課 鷹見広志 氏
14:20-14:35	5 G等デジタル技術活用促進事業及び デジタルアイランド共創コンパスについて	みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 デジタルコンサルティング部 鈴木諒
14:35-15:05	事例紹介①	ANA中部空港株式会社 企画部 DX・イノベーション推進グループ 手塚貴央 氏
15:05-15:35	事例紹介②	株式会社名鉄生活創研 経営企画部 土橋一矢 氏
15:35-15:40	閉会・アンケート	—
15:40-16:00	ネットワーキング（会場のみ）	—

■ 本セミナーの開催記録は以下の通り

開催記録

開会挨拶

中部国際空港株式会社 社長
犬塚力 氏

中部国際空港より、開会の挨拶が行われた。空港島エリアの活性化やオープンイノベーションに取り組むことの重要性などについて言及された。

あいちデジタルアイランド
プロジェクトの概要説明

愛知県 経済産業局 産業部
産業振興課 鷹見広志 氏

愛知県より、あいちデジタルアイランドプロジェクトの概要やこれまでの取組実績、これからの取組内容などについて説明が行われた。



■ 本セミナーの開催記録は以下の通り

開催記録

**5 G等デジタル技術活用促進事業
及びデジタルアイランド
共創コンパスについて**

みずほリサーチ＆テクノロジーズ
株式会社
デジタルコンサルティング部
鈴木 諒

みずほリサーチ＆テクノロジーズより、
オープンイノベーションが求められてい
る背景や、5 G等デジタル技術活用促進
事業の概要、ピッチイベントの紹介など
について説明が行われた。

**事例紹介①**

ANA中部空港株式会社 企画部
DX・イノベーション推進グループ
手塚貴央 氏

ANA中部空港より、Tech meetsでの取組
み内容について説明が行われた。



■ 本セミナーの開催記録は以下の通り

開催記録

事例紹介②

株式会社名鉄生活創研 経営企画部
土橋一矢 氏

名鉄生活創研より、Tech meetsでの取り組み内容について説明が行われた。



ネットワーキング

※会場のみ

登壇者を含む約20名で交流会が催された。



- 参加者のオープンイノベーションの取組みに対する機運やピッチイベントへの参加意向を確認することを目的として、セミナー終了後にアンケートを実施した。（回答数：33件）

～今後のセミナーの企画・運営や本プロジェクトの参考とするため、以下のアンケートにご協力ください。～
※ご回答者の個人情報はみずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社が定める「個人情報保護方針」に則り、適切な保護措置を講じ厳重に管理いたします。
※また今後、愛知県が実施するあいちデジタルアイランドプロジェクトに関するご案内のために利用させていただきます。

あいちデジタルアイランドプロジェクト「第1回機運醸成セミナー」

来場者アンケート

企業・団体等名（ ） 氏名（ ）

1. 「第1回機運醸成セミナー」の満足度はいかがでしたか。＜各項目につき1つ選択＞

内容	満足度				
あいちデジタルアイランドプロジェクト概要説明	☐ 満足	☐ やや満足	☐ 普通	☐ やや不満	☐ 不満
5G等デジタル技術活用促進事業及びデジタルアイランド 共創コンパスについて	☐ 満足	☐ やや満足	☐ 普通	☐ やや不満	☐ 不満
事例紹介（名鉄生活創研 土橋様、ANA 中部空港 手塚 様）	☐ 満足	☐ やや満足	☐ 普通	☐ やや不満	☐ 不満

2. 「第1回機運醸成セミナー」へのご参加を通じて、オープンイノベーションの取組に対する期待感や意欲は高まりましたか。＜1つ選択＞

オープンイノベーションの取組に対する機運				
☐ 非常に高まった	☐ やや高まった	☐ どちらとも言えない	☐ あまり高まっていない	☐ 全く高まっていない

3. 中部国際空港島及び周辺地域の「オープンイノベーションフィールド」化を推進するにあたり、今後のイベントで扱ってほしい内容はありますか。＜複数選択可＞

今後のイベントで扱ってほしい内容				
☐ 事業者による講演	☐ 学識者による講演	☐ 参加者グループワーク	☐ マッチング企業対談	☐ アイデアソン
☐ プロトタイプ体験	☐ 実証実験の見学	☐ その他（ ）		

4. 7月下旬～8月上旬に実施予定のピッチイベントへの参加意向をお聞かせください。＜1つ選択＞

ピッチイベントへの参加意向		
☐ フィールド企業（ニーズ企業） として参加意向有	☐ テック企業（シーズ企業） として参加意向有	☐ 現時点では参加意向なし

5. 設問4にて、「フィールド企業（ニーズ企業）として参加意向有」とお答えいただいた方にお尋ねします。

貴社が現在抱えている経営課題、実証実験に提供可能なフィールド（店舗、空きスペース、駐車場等）についてご回答ください。＜自由記述＞

6. 設問4にて、「テック企業（シーズ企業）」として参加意向有」とお答えいただいた方にお尋ねします。

貴社が現在提供している、あるいは今後提供予定のソリューションの概要、ソリューションの導入により解決が見込める課題についてご回答ください。＜自由記述＞

7. 本日のセミナーの内容に対するご感想があれば、ご自由にご記入ください。＜自由記述＞

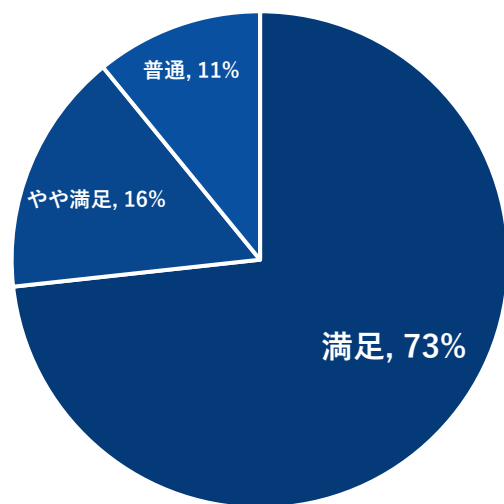
～ご協力頂きありがとうございました。本アンケートはご退場の際に受付にご提出ください。～

- セミナーの各プログラムについて、参加者の約9割から概ね満足したとの回答が得られた。特に事例紹介の満足度が高く、「自社はテック企業だと理解していたが、省人化の観点ではフィールド企業にもなり得ると気づいた（警備関連企業）」、「同じように挑戦しようとする同志の励まし合いの場としても大いに意義のあるプロジェクトだと感じた（建築関連企業）」等の意見が見られた。オープンイノベーションの機運醸成にあたっては、今後も取組事例の共有・横展開が重要となることが推察される。

セミナーの満足度

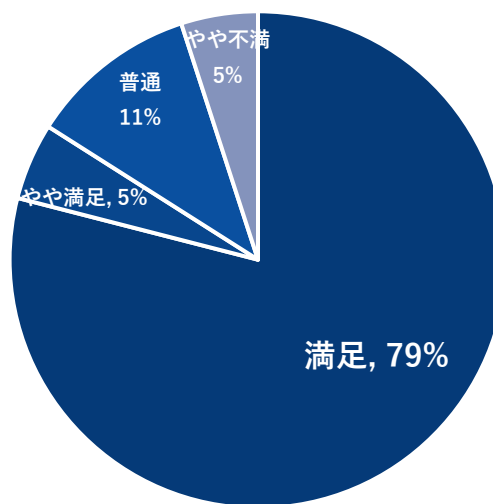
Q.「第1回機運醸成セミナー」の満足度はいかがでしたか。（単一回答）

あいちデジタルアイランドプロジェクト概要説明



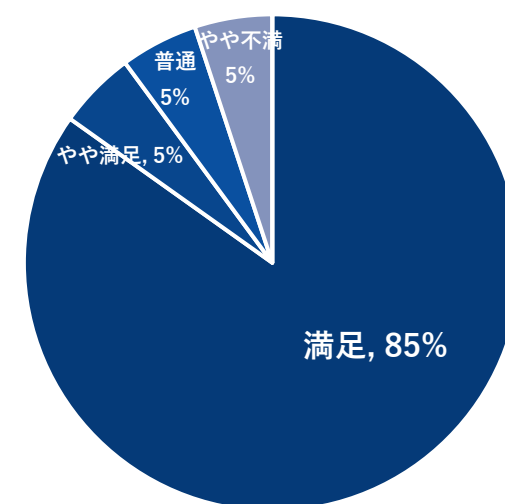
■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ 不満

5G等デジタル技術活用促進事業及び
デジタルアイランド共創コンパスについて



■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ 不満

事例紹介①・②

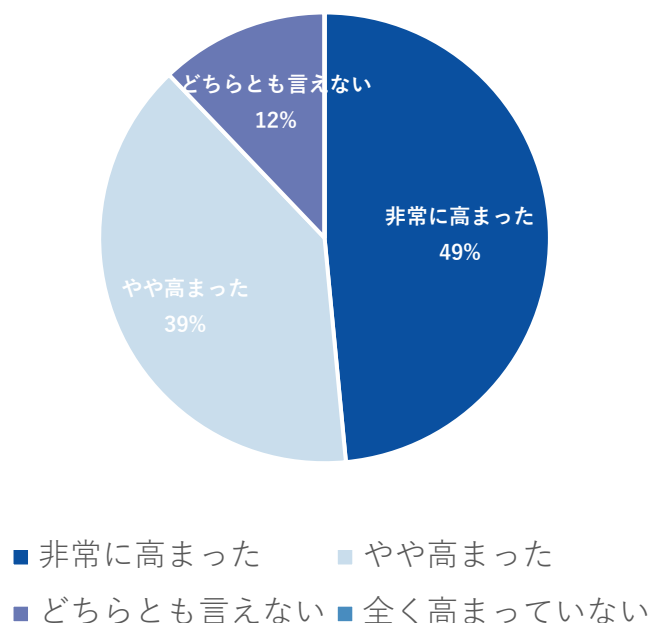


■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ 不満

- セミナーを通じて参加者の約9割がオープンイノベーションに対する機運が高まったと回答した。前頁に記載の通り、特に事例紹介では、現場担当者視点での事業参加経緯や事業を進める中での試行錯誤について説明されたため、参加者にとってもオープンイノベーションの意欲を高める機会となったものと思われる。今後は実証実験の見学・視察会等を組み合わせることにより、さらなる機運醸成に繋がる可能性があると考えられる。

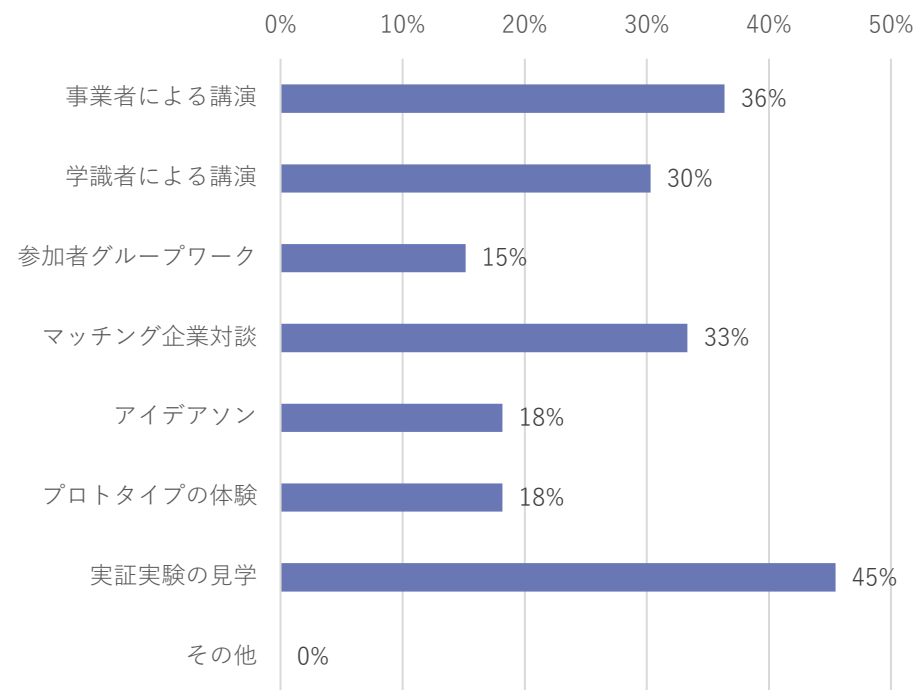
オープンイノベーションの取組みに対する機運

Q.「第1回機運醸成セミナー」へのご参加を通じて、オープンイノベーションの取組に対する期待感や意欲は高まりましたか。（単一回答）



今後のイベントで扱ってほしい内容

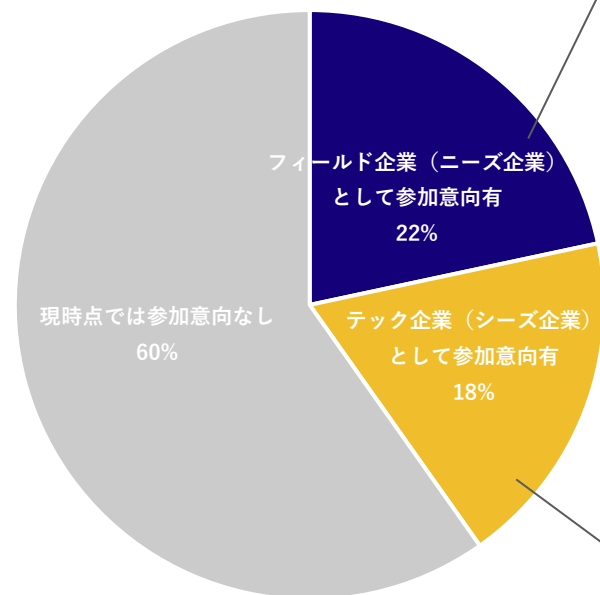
Q.中部国際空港島及び周辺地域の「オープンイノベーションフィールド」化を推進するにあたり、今後のイベントで扱ってほしい内容はありますか。（複数回答）



- ピッチイベントへの参加意向は約4割程度であった。参加意向有と回答した参加者に向けて後日ピッチイベントを案内し、マッチングに向けた支援を実施した。

ピッチイベントへの参加意向

Q. 7月下旬～8月上旬に実施予定のピッチイベントへの参加意向をお聞かせください。（単一回答）



Q【フィールド企業（ニーズ企業）として参加意向有とお答えいただいた方】
貴社が現在抱えている経営課題、実証実験に提供可能なフィールド（店舗、空きスペース、駐車場等）についてご回答ください。（自由回答）

回答

- ・ 人手不足、公共交通の維持確保、施設の老朽化、施設内案内、書類作成
- ・ 交通渋滞、混雑緩和、情報発信 など

Q【テック企業（シーズ企業）として参加意向有とお答えいただいた方】
貴社が現在提供している、あるいは今後提供予定のソリューションの概要、ソリューションの導入により解決が見込める課題についてご回答ください。（自由回答）

回答

- ・ モバイルオーダー
- ・ スマートグラス×対話型AI音声案内 など

■ フィールド企業（ニーズ企業）として参加意向有 ■ テック企業（シーズ企業）として参加意向有 ■ 現時点では参加意向なし

■ 本セミナーの開催概要は以下の通り

第2回機運醸成セミナー兼ピッチイベント開催概要

名称	第2回機運醸成セミナー 兼 ピッチイベント
開催日時	2025年8月5日 火曜日 13時～17時
開催方法	会場 + Teams用いたハイブリッド形式
会場	中部国際空港 R-1会議室
申込数	会場参加：5団体、17名
参加者数	会場参加：7団体、オンライン参加：2団体
主催	愛知県
事務局	みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社



◀ セミナーの様子

セミナー後に開催した
商談会の様子 ▶

■ 本セミナーの開催概要は以下の通り

第3回機運醸成セミナー開催概要

名称	成果報告会 兼 第3回機運醸成セミナー
開催日時	2026年3月4日 水曜日 14時～16時
開催方法	会場 + Zoomを用いたハイブリッド形式
会場	STATION Ai 大会議室1・2
申込数	会場参加：30名、オンライン参加：30名
参加者数	会場参加：25名、オンライン参加：46名
主催	愛知県
事務局	みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社



会場の様子



■ 本セミナーのプログラムは以下の通り

プログラム

時間	プログラム	登壇者
14:00-14:05	開会挨拶	愛知県 経済産業局 産業部 産業振興課 相模亮哉 氏
14:05-14:35	最終報告①	ugo株式会社 中部国際空港株式会社
14:35-15:05	最終報告②	カサナレ株式会社 常滑市
15:05-15:35	最終報告③	AI model 株式会社 知多半島ケーブルネットワーク株式会社
15:35-15:40	2026年愛知県が実施予定のあいち デジタルアイランドプロジェクト事業の紹介	愛知県 経済産業局 産業部 産業振興課 鷹見広志 氏
15:40-16:00	ネットワーキング（会場のみ）	—

■ 本セミナーの開催記録は以下の通り

開催記録

開会挨拶

愛知県 経済産業局 産業部
産業振興課 相模亮哉 氏

愛知県より、開会の挨拶が行われた。
あいちデジタルアイランドプロジェクト
の概要について言及された。



最終報告①

ugo株式会社
中部国際空港株式会社

ugoおよび中部国際空港より、実証実験
による成果や今後の展望などについて説
明が行われた。



■ 本セミナーの開催記録は以下の通り

開催記録

最終報告②

カサナレ株式会社
常滑市

カサナレおよび常滑市より、実証実験による成果や今後の展望などについて説明が行われた。



最終報告③

AI model 株式会社
知多半島ケーブルネットワーク株式会社

AI modelおよび知多半島ケーブルネットワークより、実証実験による成果や今後の展望などについて説明が行われた。



■ 本セミナーの開催記録は以下の通り

開催記録

**2026年愛知県が実施予定のあいち
デジタルアイランドプロジェクト事
業の紹介**

愛知県 経済産業局 産業部
産業振興課 鷹見広志 氏

愛知県より、2025年度の実施予定の事業内容を踏まえた2026年度に実施予定の事業内容について説明が行われた。



ネットワーキング

会場参加者約25名で交流会が催された。



■ セミナー参加によるオープンイノベーションに対する印象の変化や来年度事業を見越したオープンイノベーションへの参加意向を伺うことを目的として、セミナー終了後にアンケートを実施した。（回答数：17件）

～今後のイベント企画・運営や本プロジェクトの参考とするため、以下のアンケートにご協力ください。～
※ご回答者の個人情報はみずほサーチ&テクノロジーズ株式会社が定める「個人情報保護方針」に則り、適切な保護措置を講じ厳重に管理いたします。
※また今後、愛知県が実施する「あいちデジタルアイランドプロジェクト」に関するご案内のために利用させていただきます。

あいちデジタルアイランドプロジェクト（5G等デジタル技術活用促進事業）

成果報告会 兼 第3回機運醸成セミナー

来場者アンケート

企業・団体名（ ） 氏名（ ）

- 成果報告会 兼 第3回機運醸成セミナー（以下「本報告会」）に参加した目的として、当てはまるものをすべて選択してください。＜複数選択＞
 - ☐ 協業先・連携先を探すため
 - ☐ 先端デジタル技術の具体的な活用事例や最新トレンドを学ぶため
 - ☐ オープンイノベーションの進め方や事例を参考にするため
 - ☐ 「あいちデジタルアイランドプロジェクト」の具体的な取り組みや成果を知るため
 - ☐ 2026年度以降の「あいちデジタルアイランドプロジェクト」の事業内容や公募情報を得るため
 - ☐ 特定の登壇企業・団体の発表に関心があったため
(具体的な企業・団体名：)
 - ☐ その他
(自由記述：)
- 本報告会の全体的な満足度について、最も近いものを1つ選択してください。＜1つ選択＞
 - ☐ 満足
 - ☐ やや満足
 - ☐ 普通
 - ☐ やや不満
 - ☐ 不満
- 本報告会を通じて、中部国際空港島及び周辺地域におけるオープンイノベーションへの印象はどのように変化しましたか。＜1つ選択＞
 - ☐ 以前から魅力を感じていたが、さらに魅力が増した
 - ☐ 今回、新たに魅力を感じるようになった
 - ☐ どちらも言えない／変わらない
 - ☐ 魅力を感じなかった
- 今後、中部国際空港島及び周辺地域を中心とした県内全域におけるオープンイノベーションへの参加意向について、最も近いものを1つ選択してください。＜1つ選択＞
 - ☐ フィールド企業として参加したい（課題解決や実証の「場」を提供したい愛知県内の企業・組織・団体等）
 - ☐ テック企業として参加したい（自社の技術やサービス・ソリューションを提供したい全国のシーズ企業）
 - ☐ 現時点では参加意向なし

5. 設問4にて、「フィールド企業として参加したい」とご回答いただいた方へお伺いします。

現在抱えている課題や、実証実験で提供可能なフィールド（店舗、駐車場、空きスペース等）、挑戦してみたい実証実験の内容等をご自由にご記入ください。＜自由記述＞

6. 設問4にて、「テック企業として参加したい」とご回答いただいた方へお伺いします。

貴社が提供可能なソリューションの概要や、挑戦してみたい実証実験の内容等をご自由にご記入ください。＜自由記述＞

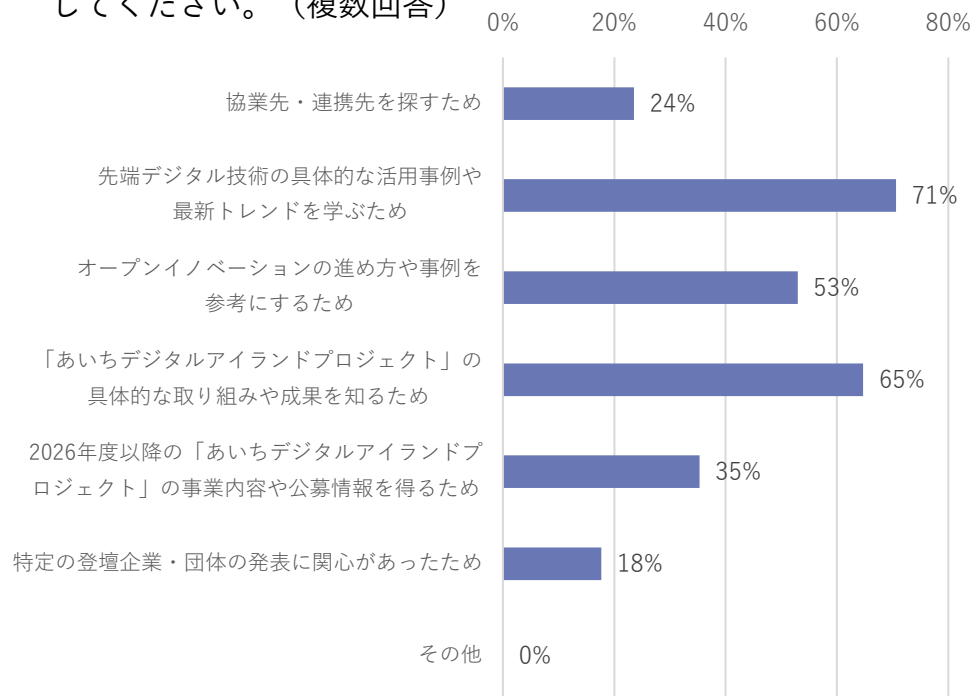
7. その他、本プロジェクトや本報告会に関するご意見、ご感想等ございましたら、ご自由にご記入ください。＜自由記述＞

～ご協力頂きありがとうございました。本アンケートはご退場の際にご提出ください。～

- 主な参加目的から、マッチングではなく「情報収集」段階の参加者が多いと思料される。成果報告会を兼ねた位置づけのため、まずは先行事例から学びたいというニーズが強い傾向にあったと推測される。
- 最終報告は参加者の機体を概ね応えるものであり、「他のエリアで実際に行われたプロジェクトで、どんな課題に対してソリューションが導入されたのか分かり、参考になった」との回答からも、オープンイノベーションやあいちデジタルアイランドプロジェクト参画の機運を醸成する効果があったといえる。

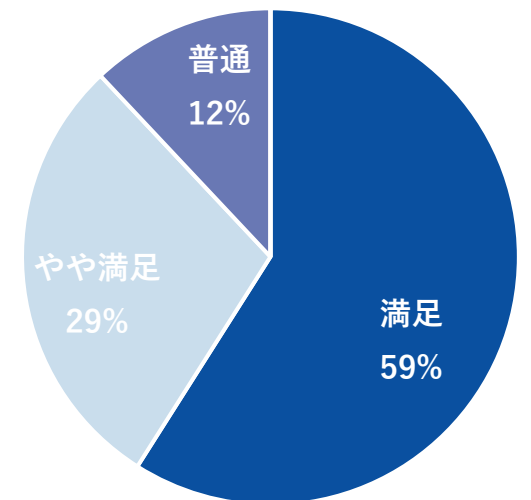
セミナー参加目的

Q.成果報告会 兼 第3回機運醸成セミナー（以下「本報告会」）に参加した目的として、当てはまるものをすべて選択してください。（複数回答）



セミナーの満足度

Q.本報告会の全体的な満足度について、最も近いものを1つ選択してください。（単一回答）

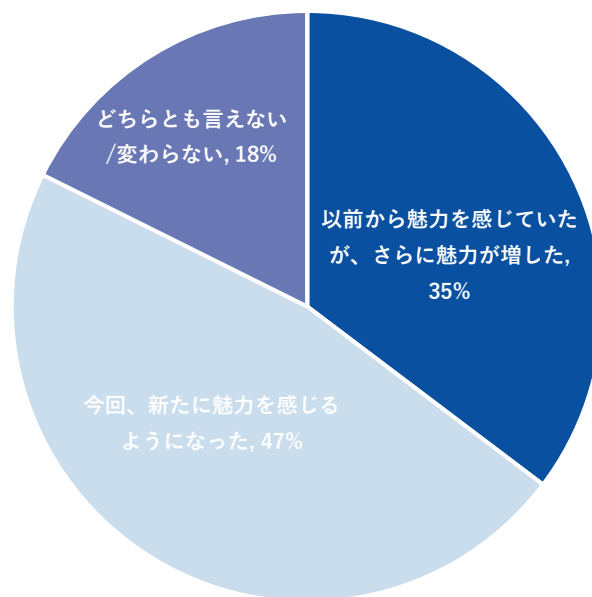


■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ 不満

- 空港島エリアをフィールドとするオープンイノベーションについて、約8割が高く評価している。特に、参加者の約半数が本セミナーをきっかけに新たに魅力を感じており、機運醸成が順調に進んでいるといえる。

オープンイノベーションに対する印象の変化

Q.本報告会を通じて、中部国際空港島及び周辺地域におけるオープンイノベーションへの印象はどのように変化しましたか。
(単一回答)

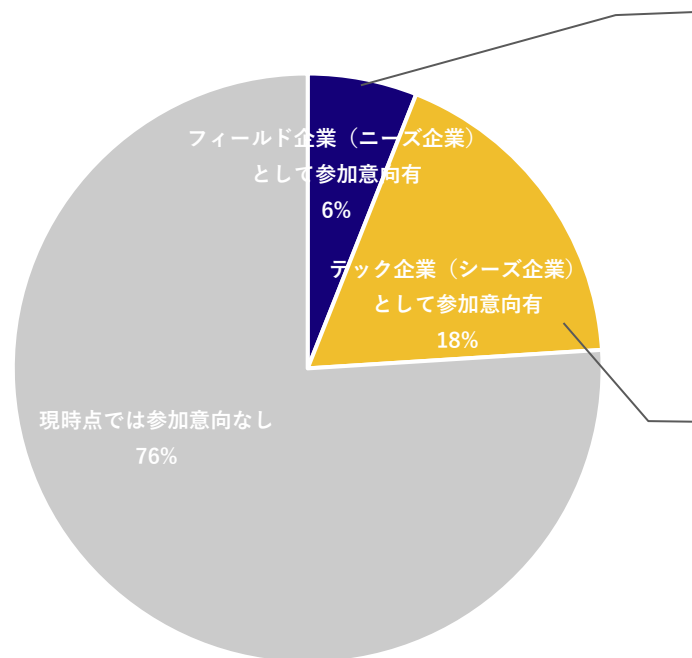


- 以前から魅力を感じていたが、さらに魅力が増した
- 今回、新たに魅力を感じるようになった
- どちらとも言えない/変わらない
- 魅力を感じなかった

- セミナーの満足度やフィールドへの魅力度に対し、参加意向については明確なギャップが生じた。次年度以降は、醸成された機運を実証参画等の具体的な行動に転換させるための取組みが必要となる。

オープンイノベーションへの参加意向

Q.今後、中部国際空港島及び周辺地域を中心とした県内全域におけるオープンイノベーションへのご参加意向について、最も近いものを1つ選択してください。（単一回答）



Q【フィールド企業として参加したいとご回答いただいた方】

現在抱えている課題や、実証実験で提供可能なフィールド（店舗、駐車場、空きスペース等）、挑戦してみたい実証実験の内容等をご自由にご記入ください。（自由回答）

回答

- ・ 主に公共空間を活用した実験を行いたいと考えている。メンバーからは、各企業ごとに課題を集めている。

Q【テック企業として参加したいとご回答いただいた方】

貴社が提供可能なソリューションの概要や、挑戦してみたい実証実験の内容等をご自由にご記入ください。（自由回答）

回答

- ・ ロボットや操作画面のインターフェースとして、人のようなキャラクターは有効だと感じた
- ・ 施設管理及び広告におけるDX活用が可能

■ フィールド企業（ニーズ企業）として参加意向有 ■ テック企業（シーズ企業）として参加意向有 ■ 現時点では参加意向なし

2. ワンストップ窓口の運営

- 以下の流れで業務を推進した
- あいちデジタルアイランドに関する問い合わせ等を受け付ける窓口を開設し、弊社HPにて周知を実施
- 問い合わせは電話・オンラインフォーム・メールによる問い合わせ手段を用意した

ワンストップ窓口の運営



- 本事業で実施する各種実施事項（ピッチイベント、機運醸成セミナー等）に関する問い合わせをはじめ、デジタル技術を活用した実証・実装の意向を有する企業・施設や自治体等の相談にワンストップで対応する窓口をみずほリサーチ＆テクノロジーズWebページに設置した。

ワンストップ窓口Webページ

中部国際空港周辺におけるイノベーション創出・実証実験のマッチングに向けた窓口を開設します

愛知県委託事業

[更新履歴]

2025年6月6日 ページを公開

2026年2月4日 ページを更新

みずほリサーチ＆テクノロジーズでは、愛知県から委託を受け、「あいちデジタルアイランドプロジェクト推進事業（5G等デジタル技術活用促進事業）実施委託業務」を実施しております。

その一環として、中部国際空港島及び周辺地域（以下「エリア」）におけるオープンイノベーションのさらなる促進や、各種サービスやソリューションの早期社会実装の実現に向け、**自社課題の解決策を模索するエリア内の企業・施設と、実証フィールドを探す全国のテック企業・スタートアップの橋渡しを支援するための窓口**を開設いたします。

▶ [ご案内 \(PDF/1,544KB\)](#) 

窓口の概要

窓口では、エリア内の実証等の実施に向けた幅広いお問合せを受け付ける「パターン④」と、より具体的な実証イメージをお持ちの方向けに、実証フィールド探しや調整をご支援する「パターン⑤（フィールドマッチング）」の2パターンに分けて、ご相談をお受付します。

ワンストップ窓口支援内容を示したリーフレット

あいちデジタルアイランドプロジェクト

中部国際空港周辺からイノベーションを創出

実証実験のフィールドマッチングを支援

幅広く相談を受付ける窓口開設

About

愛知県は、中部国際空港島や周辺地域エリアを、「革新的事業・サービスのオープンイノベーションフィールド」と位置づけています。

「解決したい課題をお持ちのエリア内企業等の方」や「実証フィールドを探している全国のテック企業、スタートアップの方」から、オープンイノベーションに向けたご相談を広く受け付ける窓口を開設し、情報提供や実証実験フィールドのマッチング等を支援します。

裏面に記載のワンストップ窓口まで、お気軽にご連絡ください！

エリア内企業等の方	テック企業、スタートアップの方（全国どこでも）
自社の課題解決と一緒に取組んでくれるパートナー（テック、スタートアップ）企業を探したい方	自社の技術を用いた実証実験やソリューション開発のためのフィールドを探している方
パターン④ まずは相談から始めたい方	パターン⑤ 実証の明確なイメージをお持ちの方
当社のリアルタイム翻訳技術へのニーズはありそうでしょうか？ 海外からのお客様へのサービス品質向上に向け、良い解決策をもつ企業はないでしょうか？	訪日観光客向けにVRデモ会をしてみたくて、このような企画を考えているのですがフィールドがまだ……
・ 実証アイデアの具体化のお手伝いをします！ ・ エリア内の事業者についての情報や、活用可能な補助金等の情報をご提供します！	・ 事務局がエリア内の事業者や自治体との間に入り、フィールド探しや事業者との調整をバックアップします！

※ パターン⑤は2025年6月末までにお問合せいただいた場合2025年7月に実施予定のピッチイベントへの参加を案内させていただきます。本ピッチイベントでは、テック企業・スタートアップ企業からエリア内企業の課題解決に資する実証実験のピッチ（提案）を行っていただき、マッチングした際は実証実験費用の一部を愛知県より支援します。詳細はワンストップ窓口までお問い合わせください。

- ワンストップ窓口への問合せ実績数と、各問合せにおける対応方針は下図の通り
- 具体的なビジネスにつながりうる内容（本事業においては事務局からの実証実験経費の補助）に関する問合せがやはり多い傾向を再確認

ワンストップ窓口への問合せ実績数と対応方針

窓口対応種別	問合せ対応回数	対応方針
実証実験・ピッチイベントに関する 問合せ	<u>16社</u>	8/5開催ピッチイベントの案内を実施
協業先の探索に係る問合せ	<u>2件</u>	愛知県様と共有の上、具体的な ソリューション提案があった場合は フィールド企業との仲介を実施

3. P R ツールの作成及び成果報告会の開催

- 以下の流れで業務を推進した
- PRツールの形式・内容については今後の活用方法を念頭に貴省と作成方針をすり合わせの上作成に着手した
- 本事業の成果報告会を開催し、県内外の企業・自治体に対してあいちデジタルアイランドプロジェクトのPRを行った

PRツールの作成及び成果報告会の開催



- 愛知県様における対外的な公演等でも利用しやすいよう、今年度本事業で実施した各実証実験の取組内容やそれを踏まえた成果について、1ページで内容が伝わりやすい内容とするべくフォーマットの検討を行った
- 実際のフォーマットは以下の通り。以下に基づいて作成した実際のPRツールについて次頁以降に掲載する

PRツールフォーマット

(フィールド企業名)	(テック企業名)
解決したいお悩み ・ ~~~ ・ ~~~	活用したいソリューション/ 検証したい観点 ・ ~~~ ・ ~~~
(実証タイトル)	
実施内容①： ~~~	実施内容②： ~~~
■ (実証内容①の目的を記載) 実証実験①の具体的な実施内容や実施結果等について具体的に記載	■ (実証内容②の目的を記載) 実証実験②の具体的な実施内容や実施結果等について具体的に記載
実証内容①の様子等を示す 写真や画像・イラストを掲載	実証内容②の様子等を示す 写真や画像・イラストを掲載
実証実験の成果/ あいちデジタルアイランドへの参加による効果	
【フィールド企業 (●●会社) 視点】 ・ ~~~	【テック企業 (●●会社) 視点】 ・ ~~~

【2025年度】あいちデジタルアイランドプロジェクト（5G等デジタル技術活用促進事業） ～オープンイノベーションによる実証実験事例～

中部国際空港株式会社



ugo株式会社

解決したいお悩み

- 簡単な案内の自動化
- 巡回業務の省力化

活用したいソリューション / 検証したい観点

- 自動巡回機能、遠隔・自動案内機能
- ロボットソリューションのユースケース創出

警備・案内ロボット「ugo Pro」を活用した空港案内スタッフの業務効率化

実施内容①：立哨案内

■案内業務の省人化・省力化

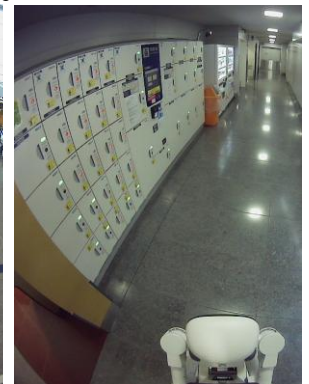
AIや定型文を用いた音声案内にて、ターミナル内における案内業務の省人化・省力化に寄与する可能性を確認。



実施内容②：走行運用

■移動・確認業務の削減による効率化

ロボットによる定期巡回および画像取得を活用することで、巡回や確認のためにスタッフが現地へ移動する回数を抑えることができ、移動時間や身体的負担の軽減につながる可能性を確認。



実証実験の成果 / あいちデジタルアイランドへの参加による効果

【フィールド企業（中部国際空港）視点】

- 実感した変化：お客様がロボットに対して受容性が高いことを実感し、補助的な役割として将来的な省人化に対応できる可能性を得られた
- 組織内での副次的な効果：ロボットの得意・不得意で、ロボットが補える業務・人が対応すべき業務の再確認ができた。さらに今後の案内業務に活かせる新たな視点を見出すことができた。

【テック企業（ugo）視点】

- 空港環境でPoCにて、技術検証だけでなく運用・安全・導線設計まで含めた実装知見を得られた
- 現場担当者との対話を通じ、机上では見えない業務課題や期待値を把握でき、プロダクト改善に直結する学びが得られた
- 公共性の高い場での実証実績が、今後の事業展開や社会実装に向けた信頼性向上につながった

【2025年度】あいちデジタルアイランドプロジェクト（5G等デジタル技術活用促進事業） ～オープンイノベーションによる実証実験事例～

常滑市



カサナレ株式会社

解決したいお悩み

- ・ バスの運行ダイヤ改正作業の省力化/属人化解消
- ・ 車両配分の最適化

活用したいソリューション/検証したい観点

- ・ 生成AIを用いた業務効率化ソリューションのユースケースの発掘

生成AIを活用したバス運行ダイヤ作成の業務効率化・最適化

実施内容①：ダイヤ作成に向けた条件検討

■常滑市のバスダイヤ作成における制約等をルール化
常滑市コミュニティバスの鉄道接続、遅延傾向、複数路線の車両運用、EVバスの充電制約、運転手の休憩規程など、複数の制約条件を生成AIを活用して整理・ルール化。

最大便数の確保

常滑市のコミュニティバス『グルーン』の運行については、1路線車両1台ではなく、7路線を6台で最大限の便数となる車両運用を考慮してダイヤを作成している。

EV車両の導入

EV車の導入により、走行可能距離や充電時間、充電場所などの影響も考慮したダイヤを作成する必要がある。

交通結節点の増加

路線が多くなり、各路線のダイヤ接続や他のモビリティとの接続点が多くなったことからダイヤ作成において考慮すべき点が増加。

実施内容②：バスダイヤ自動生成システムの開発・拡張

■「2つのAI」によるダイヤ案生成業務の高速化

①最適化AIにより全123便のダイヤを生成。それを基に、②最適化AIが運行ダイヤの最適な組み合わせを自動構築。より細かい調整や各ダイヤの生成理由の説明など、実務上必要なケースにも対応。

①最適化AI

ワンクリックでダイヤを自動生成するツール

- ・ 制約条件を優先
- ・ 簡単な操作
- ・ 2秒で生成

②高度化AI

AIと共同でダイヤ作成を行うワークスペース

- ・ 人が判断できる
- ・ AIと共同編集
- ・ 比較・レビュー可能



実証実験の成果 / あいちデジタルアイランドへの参加による効果

【フィールド企業（常滑市）視点】

- 実感した変化：課題に対して既存のシステムで対策するのではなく、オーダーメイドでシステム構築していくことで対策効果が高いものができると実感した。
- 組織内での副次的な効果：事業課が実際に実証実験に参加することで、テック企業等との共創に対する心理的なハードルが下がったと感じた。

【テック企業（カサナレ）視点】

- 制約の多いダイヤ作成業務で、生成AI単体ではなくアルゴリズム併用が有効だと検証でき、実装に近い知見が得られた。
- 「実際にダイヤ作成を行う担当者だったら」という目線でどのような体験であればわかりやすく、楽に業務遂行できるか、という担当者目線のシステム設計が出来た。

【2025年度】あいちデジタルアイランドプロジェクト（5G等デジタル技術活用促進事業） ～オープンイノベーションによる実証実験事例～

知多半島ケーブルネットワーク株式会社



AI model株式会社

解決したいお悩み

- 地域密着メディアとしての新たな取り組み創出
- 従来のPRへの疑問と限界／若年層へのアプローチ

活用したいソリューション／検証したい観点

- 生成AIを活用したキャラクター構築
- 若年層に届くプロモーション

生成AIを活用した日本初「地域密着型AIアナウンサー」

実施内容①：ニュースへの起用

■ニュースCCNCでの活用

実在のアナウンサーのアシスタントとして「今日のラインナップです」などニュースの定型的な部分を担当。役割を明確化させることで活用の可能性を確認。



実施内容②：地域イベントへの参加

■「武豊町ゆめたろうスマイルマラソン」参加
開会式や会場ブースに大型モニターを通じて参加。開会式では選手宣誓を実施し、「地域密着型AIアナウンサー」としての活用の幅を確認。



実施内容③：SNS投稿への登場

■SNSでのプロモーション活用

ニュースCCNCのリニューアル告知やスマイルマラソン当日までのカウントダウン、新年の挨拶に登場。通常投稿と比較して閲覧数は131%となり、プロモーション活用への効果を確認。



実証実験の成果／あいちデジタルアイランドへの参加による効果

【フィールド企業（知多半島ケーブルネットワーク）視点】

- 実感した変化：単なる技術検証に留まらず、地域・番組・イベントといった複数分野への横断的活用が可能となった
- 組織内での副次的な効果：部署を越えた会話や意見交換が増え、技術導入をきっかけとした組織内コミュニケーションの活性化につながった

【テック企業（AI model）視点】

- 動画編集・放送のプロとの共同作業の中で、新しいAI技術や表現方法にチャレンジし、成長することができた
- 放送時の様子や地域イベント参加時のリアルなフィードバックにより、高いモチベーションで制作物ごとにクオリティを高めることができ、AIキャラクターによる表現の新しい可能性を感じた

■ 成果報告会の開催概要は以下の通り

成果報告会の開催概要

名称	成果報告会 兼 第3回機運醸成セミナー
開催日時	2026年3月4日 水曜日 14時～16時
開催方法	会場 + Zoomを用いたハイブリッド形式
会場	STATION Ai 大会議室1・2
申込数	会場参加：30名、オンライン参加：30名
参加者数	会場参加：25名、オンライン参加：46名
主催	愛知県
事務局	みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社



会場の様子



会場の様子

■ 成果報告会のプログラムは以下の通り

プログラム

時間	プログラム	登壇者
14:00-14:05	開会挨拶	愛知県 経済産業局 産業部 産業振興課 相模亮哉 氏
14:05-14:35	最終報告①	ugo株式会社 中部国際空港株式会社
14:35-15:05	最終報告②	カサナレ株式会社 常滑市
15:05-15:35	最終報告③	AI model 株式会社 知多半島ケーブルネットワーク株式会社
15:35-15:40	2026年愛知県が実施予定のあいち デジタルアイランドプロジェクト事業の紹介	愛知県 経済産業局 産業部 産業振興課 鷹見広志 氏
15:40-16:00	ネットワーキング（会場のみ）	－

■ 成果報告会の開催記録は以下の通り

開催記録

開会挨拶

愛知県 経済産業局 産業部
産業振興課 相模亮哉 氏

愛知県より、開会の挨拶が行われた。
あいちデジタルアイランドプロジェクト
の概要について言及された。



最終報告①

ugo株式会社
中部国際空港株式会社

ugoおよび中部国際空港より、実証実験
による成果や今後の展望などについて説
明が行われた。



■ 成果報告会の開催記録は以下の通り

開催記録

最終報告②

カサナレ株式会社
常滑市

カサナレおよび常滑市より、実証実験による成果や今後の展望などについて説明が行われた。



最終報告③

AI model 株式会社
知多半島ケーブルネットワーク株式会社

AI modelおよび知多半島ケーブルネットワークより、実証実験による成果や今後の展望などについて説明が行われた。



■ 成果報告会の開催記録は以下の通り

開催記録

2026年愛知県が実施予定のあいち
デジタルアイランドプロジェクト事
業の紹介

愛知県 経済産業局 産業部
産業振興課 鷹見広志 氏

愛知県より、2025年度の実施予定の事業内容を踏まえた2026年度に実施予定の事業内容について説明が行われた。



ネットワーキング

会場参加者約25名で交流会が催された。



ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO

